

ふれあいと対話が築く明るい社会

もうすぐ、子どもたちが待ち望んでいる夏休みがやってきます。勉強やスポーツ、遊びなど、さまざまな計画を立てていることでしょう。

しかし、一方で夏休みは少年の非行が増える時期でもあります。ちょっとした気の緩みからシンナーに手を出したり、万引をしたりする子どもたちがいることも事実です。

情報過多の時代といわれる中、子どもたちを取り巻く社会全体の環境が悪化していることも少なからず原因があるでしょう。しかし、一番



大きなウェートを占めているのは、わたしたち大人が子どもたちとのふれあいや対話を忘れて

いることではないでしょうか。毎年7月は「社会を明るくする運動」が展開されています。子どもたちが健やかに伸び伸び成長できる明るい社会をつくるために、家庭や学校、職場、地域社会などで、わたしたち大人が親身になって子どもたちとふれあい、対話を心がけたいものです。そして、非行を防ぎ犯罪を起こさせない環境を、お互いにつくりあげていきましょう。



子どもが非行に走ってしまう原因には、家庭環境や交友関係、社会環境など、さまざまなことが挙げられます。また子ども自身の問題としては、「みんなやっている」というような甘えた気持ちや、「スリルを味わう」といった興味本位の好奇心が少年犯罪の約70%を占めています。

子どもたちとふれあう機会をもとう

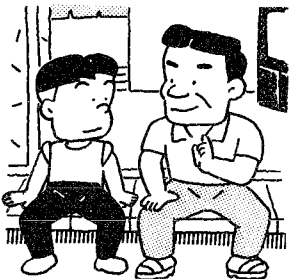
そこで、大事なことは、大人がふだんの生活の中で、子どもたちとふれあう機会を多く、

子どもが非行に走ってしまう原因には、家庭環境や交友関係、社会環境など、さまざまなことが挙げられます。また子ども自身の問題としては、「みんなやっている」というような甘えた気持ちや、「スリルを味わう」といった興味本位の好奇心が少年犯罪の約70%を占めています。

一方、わたしたち大人も子どもたちを取り巻く社会環境を、未来に希望のもてる明るい環境に改善していかなくてはなりません。子どもたちの非行は周りの環境に敏感に影響されるといいます。ですから、子どもたちの一番身近な、

地域社会が一丸となって明るい社会をつくらう

地域社会が一丸となって、犯罪のない社会をつくりあげることが大切です。そのためには、学校や家庭、職場、地域が連携をもって、子どもたちに優しい手を差し伸べる必要があります。



人が自分の体験談や犯罪の恐ろしさを話したり、子供たちの悩みについてアドバイスしたりすることで、自然に社会性や自立心を養うことができます。このような話し合いの場は、家庭や学校、職場だけでなく、地域社会や町内会など、さまざまなところで気軽に行ってください。



小学校から出火 消防団は出動せよ！

消防団連合演習



月潟村消防団では、6月13日に平成5年度連合演習を実施しました。演習は、「午前6時50分、月潟小学校から出火」の想定で、119番通報により開始されました。通報後、防災行政無線のサ

イレンが鳴り響き、消防団が出動、続々と小学校周辺に集結、また、白根地区消防署からも救急車、消防車が出動し、人命救助や消火活動など、本番さながらの訓練が行われました。想定演習終了後、会場を中学校グラウンドに移し、点検や操法競技などを実施し、最後に月潟市街地で力強い分列行進を行って閉会しました。なお、小型ポンプ操法競技大会の結果は、次のとおりです。

- 力強い分列行進
- 一、永年勲績表彰
(一)10年以上
- 金井 信二 小林 清作
 - 田辺美知男 酒井 明
 - 小林 良栄 小武内明浩
 - 山坂 仁 渡辺 富治
 - 野沢 忠 原 正行
 - 大関 幸夫 石川 修也
 - 白倉 守 山崎 孝志
 - 山崎 和弘 荻原 松蔵
- (敬称略)

